TIMAを楽しむ10のポイント

TIMAの楽しみ方を10のポイントにまとめてみました。これを読んで、是非ご来館していただければと思います。開館時間は9時〜17時、休館日は原則月曜、観覧料は一般800円・学生400円です。

1 スティールハットの包まれるような空間

展示棟であるスティールハットは、多角形を組み合わせたかたちをしています。室内は垂直の壁が一つもなく、天井にいくにつれ拡がったり、狭まったり。床の大きさは一緒だけれど、壁の具合で全く違う部屋に感じられます。普段見慣れた空間とは大分違いますが、入ってみるとその心地良さを感じることができます。

2 せんだいメディアテークコンペティションモデル

スティールハットのエントランスホールには、伊東さんの代表作「せんだいメディアテーク（注1）」の模型が置かれています。この模型のオリジナルは、ニューヨーク近代美術館にコレクションされている程、貴重なものです。チューブと呼ばれる透明な柱で支えられている美しい建築の姿は必見です。

3 建築って何だろう？〜模型とメッセージから〜

エントランスホールを抜けると、青一色の部屋があります。そこには、小さな建築模型が、瀬戸内海をイメージした島々に載せられ、島の間には様々な分野の人や伊東事務所スタッフの、「建築って何だろう」と問いかける言葉が散りばめられています。島々を巡りながら、建築の航海へと旅立ってください。

4 東日本大震災を経て、建築家は何を考えた？

青一色の部屋を抜けると、高さ約10ｍの見上げるような空間があります。その壁一面には、世界中の建築家、大学生、市内の小学生が描いた被災地支援プロジェクト「みんなの家（注2）」のイメージスケッチが展示されています。震災に対して、建築家がどんなことを考えたかを垣間見ることができます。

5 船のデッキのようなスティールハットのテラス

スティールハットには、とても眺めの良いテラスがあります。鉄板で覆われた空間は、まるで船のデッキのようです。普段は、立入禁止なのですが、スタッフ同行で登ることができます。（お客様が多い時などは、お断りさせていただく場合がありますので、ご了承ください）

6 伊東豊雄さんの元自宅シルバーハット

イベントや図書閲覧のスペースとして使われているシルバーハット。元々は伊東さんのご自宅でした。1984年に竣工し、東京中野に建っていたものは既に解体されてしまいましたが、この度、新しく大三島で再生しました。シルバーハットは、「日本建築学会賞」という建築界で名誉ある賞も受賞した名作建築です。

7 他では見られない、貴重な建築アーカイブ

シルバーハットの図書閲覧スペースには、今までの伊東さんの建築図面が公開されています。一つの建築をつくるために、膨大な図面が書かれていること、ディテールまで徹底することで気持ちの良い空間ができることなど、建築の奥深さと裏側を知ることができます。このような資料は全国的に見ても大変珍しいです。

8 大橋晃朗（てるあき）さんの夢のある家具

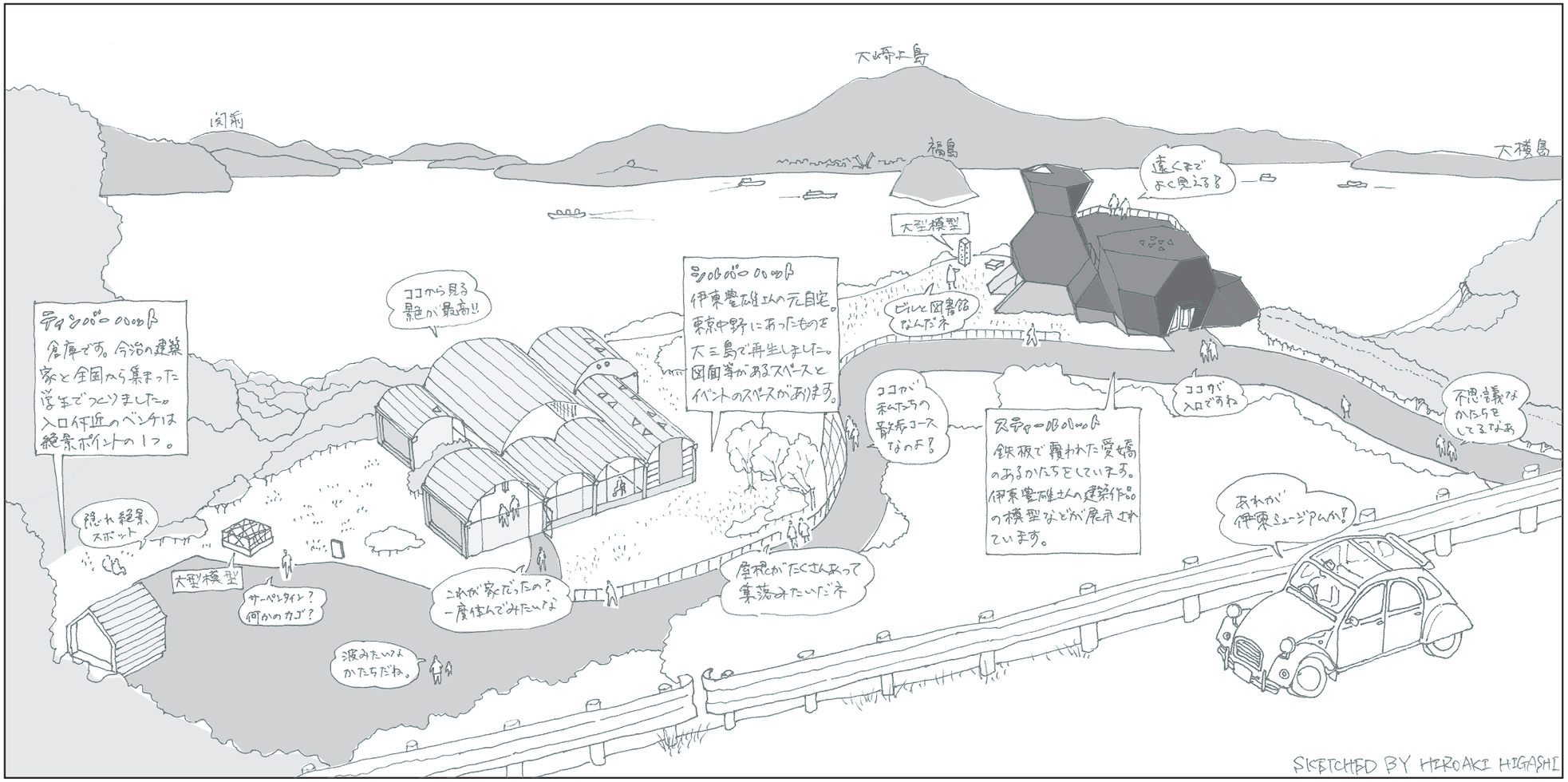
大橋晃朗さん（注3）は、伊東さんを始め、多くの建築家と親交を重ねた家具デザイナーです。伊東さん設計の「八代市立博物館」のための家具が遺作となり、1992年にこの世を去りました。その大橋さんの家具がシルバーハットに展示されています。どこかユーモラスな表情の家具を是非ご覧ください。

9 シルバーハットのワークショップスペース

シルバーハットのワークショップスペースには、テーブルと椅子が置かれていて、ちょっとした休憩ができます。冬はちょっと寒いと思いますが、夏は風が通り抜けて、本当に気持ちの良い空間です。また、ここから見る夕日は格別です。サタデーナイトミュージアムにお越しいただき、一緒に夕日を眺めましょう。

10 散策にぴったりな回遊できる敷地

TIMAの敷地内はぐるっと一回りできるようになっています。なかなかTIMAに来るのは大変ですが、お近くを通った際は、少し休憩も兼ねて、敷地内を散歩してください。途中に伊東建築の大型模型がありますので、そちらも一緒に見れば、無料でミュージアムを楽しめます。



注１：せんだいメディアテーク

2001 年、21 世紀の幕開けとともに仙台市にオープンした複合公共施設。図書館やギャラリー、映像ライブラリーなどがあり、様々な情報の発信・収集拠点となっている。1995 年、設計競技において伊東豊雄建築設計事務所が最優秀者に決定し、97 年に着工。鋼管を組み合わせてつくられた「チューブ」と呼ばれる構造体によって、ハニカム状の鉄骨フラットスラブ（床板）が支えられている。「チューブ」には、空調設備・採光装置・階段などがあり、風・光・人の通り道となっている。また、南面のファサードは、ガラス面が二重（ダブルスキン）になっており、熱効率を上げている。

壁がなくどこまでも水平に拡がっていくような空間に、老若男女様々な人が思い思いに活動している様子は、現代にあるべき公共空間の在り方の一つの可能性を提示している。

注２：みんなの家

日本を代表する建築家、伊東豊雄・山本理顕・内藤廣・隈研吾・妹島和世の５人が呼びかけた東日本大震災のためのプロジェクト。避難所や仮設住宅などの厳しい生活を強いられている被災地に、「共同のリビングルーム」のような建築をプレゼントしようとするもの。現在、熊本県が行う「くまもとアートポリス」の一環として、事業が進行中。TIMA に展示されている世界中から集められた「みんなの家」のイメージスケッチは、せんだいメディアテークでも展示された。

注３：大橋晃朗（おおはしてるあき）

1938 年愛知県生まれ。1992 年に逝去するまでに数々の名作家具を生み出している。それらの家具の放つ、豊かなイメージや社会的なメッセージからすると、大橋氏に家具デザイナーという言葉はふさわしくない。家具を探求し続けた思想家や歴史家のようなイメージだ。伊東氏とも深く親交を重ねた大橋は、互いに強い影響を与え合った関係だったに違いない。